

燈(あかり)mail

NO. 3

市内バスツアーが行われました。

市内の万燈祭ゆかりの名所・旧跡巡りが5月16日(土)参加者48名(大型バス1台、マイクロバス1台)で行われた。朝のうちは曇っていたが、途中から雨になり、傘をさしながらのバスツアーとなる。説明担当の広報セクションの原田光敏さんは背中に燈(あかり)屋と書かれた紫色のジャンパー(試作品)を着て、エピソードも交えながらの詳しい解説をされる。参加者も熱心に耳を傾けて感銘を受けていた。コースは、名鉄刈谷市駅から駅周辺の旅館、商店街を通り、秋葉社、万燈蔵(銀座)、札の辻、亀城小学校を巡り、亀城公園に行く。亀城公園では、正門から入り、刈谷藩2万3千石の本丸跡で刈谷城の築城や藩主の移動、亀城や十朋亭の名のいわれ等を聞く。とりわけ、尾張の東浦と接する区域が衣が浦の入り江であり、その間15町(約1600m)という地に300有余年城があったことに思いを馳せる。

次に、境川と逢妻川に架かる橋で三連橋(境橋・刈谷橋・亀城橋)と呼ばれる橋を見学し、雨の中傘をさしながら一列づつ三つの橋を歩いて渡る。それぞれの橋の説明を聞きながら、この場所がミュージカル『万燈の輝く夜に』の舞台回しでどんな役割をするのか描いてみる。再び、バスに乗り南北に長い刈谷の最北端を目指す。

昼食は、洲原公園の1画にある北部生涯学習センターで割子弁当をセクションごとに机を並べてワイワイ言いながら、楽しく食べた。最後の見学施設は、刈谷の国指定天然記念物の小堤西池のカキツバタ群落です。小堤西池は、刈谷市井ヶ谷町の東側を南北にはしる洪積層の丘陵の西のふもとにある面積20,330㎡の水田かんがい用の池で、カキツバタをはじめ水湿地固有の植物が100余种自生(野性)している所との説明を聞く。特に、自然を守ることの大切さと難しさを実感する。

参加者の皆様、雨の中ご苦労様でした。

専門研修始まる！！～台本を読み解く～

平成21年6月20日(土)午後2時から市役所南庁舎大会議室で「台本を読み解く」というテーマで講師の伊豫田静弘氏から市民劇「万燈の輝く夜に」の台本で講義を受けた。台詞やト書き等、詳しく説明していただき、台本の中の登場人物や情景等万燈の輝く夜に起きた故郷を出て行った人や残った人、再び戻ってきた人々の人間模様を情愛豊に表現する方法、故郷への思いと賛歌等、ドラマに対するアプローチの仕方等たくさんの講義を受け、受講生も熱心にメモを取っていた。

其の参 美術スタッフ

ここでは、となりのグループが今どんな活動をしているかを「のぞき見」して報告します。

去る3月26日、美術担当の川口直次さんが下見で来刈されるに合わせて、初顔合わせをしました。それ以来、月に一度のペースで会合を重ねています。メンバーは当初より一人増え、計12人です。

5月31日には刈谷ハイウェイオアシスで催された、万燈祭保存会による万燈祭プレイベントを見学しました。また近日中に、同じく保存会による万燈の制作(主に修復)の見学会が予定されています。

今はまだ、美術セクションとしての直接的な仕事はありませんが、台本の初稿を読みながら、また、関連するイベントに参加しながら、舞台のイメージを大きく膨らませています。

登場人物と刈谷の地名

今回の市民音楽劇『万燈の輝く夜に』のキーワードは『ふるさと』です。登場場面や登場人物に刈谷の地名が出てきます。

泉田、重原、井ヶ谷、高須、今川は1906(明治39)年までは独立した村でした。若松、原崎、佳吉、中山、恩田、豊田、稲場、寺横は小字名として使われていたのもありますが、1960(昭和35)年の町名変更後に誕生したものです。因みに、畑中はありませんが、畑中一色という地名が泉田町にはあります。

万燈祭・知りたい聞きたい・第2話

問い 『刈谷の万燈祭』のお囃子と万燈の舞い方には2種類あると聞きます。どのように違いますか。

『天下の奇祭・万燈祭』のお囃子は太鼓と小太鼓に篠笛が付き、そして、角万燈などで飾られた囃子台車(太鼓台車・山車ともいう)に大小ふたつの太鼓と太鼓方が乗り、笛方が囃子台車を囲んで演じます。

お囃子は「チリリ」と「チャラボコ」の2種類です。いずれもその曲調からつけられた名前です。万燈の舞い方も囃子にあわせて2種類あります。

「チリリ」は神前や賓客の前で演ずるときのもので、静かに・厳かに・緩やかに演奏するのが作法です。

「チャラボコ」は万燈の道行(市中行進)や客前での見せ場などで演ずるもので、ややアップテンポで賑やかなところに特徴があります。

「チリリ」も「チャラボコ」も1コーラス1分前後の短い曲の繰り返しですので、強弱や緩急に囃子方の技量が懸かっています。アドリブで飾りや遊びを入れる芸達者もいますが、太鼓方と笛方の息がなければ台無しです。

万燈の舞い方はそれぞれのお囃子にあわせて舞うのがもっとも大事なことです。そして、万燈方が替わるときの所作も大事です。神前や客前では万燈の裏を見せないように、且つ地面に万燈を降ろさずに万燈方が入れ替わるのが鉄則です。ベテランほどゆったりと余裕の感じられる舞方で見せ場を作ります。

右肩でも左肩でも OK という猛者は今では稀有になりました。

* 「小垣江のチャラボコ太鼓」は陸路（京→矢作→別所→西端）や海路（京→熊野→蒲郡）を通じて三河南部各地に土着した系譜のチャラボコで、万燈祭りのチャラボコと若干ルーツも仕組みも違います。

（このシリーズは10回連載の予定です。）

助成：(財)地域創造

